

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500085		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム かなれ		
所在地	名古屋市名東区猪子石原三丁目2713番地		
自己評価作成日	H27.1.28	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	H26.3.25		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者様がその入らしく穏やかに生活できるように、またできることは本人様のペースで参加していただきながら、できないことは支援させて頂いております。また、手消毒やコップ・歯ブラシ・台所用品などは除菌し、衛生面にも気をつけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「その人らしさ」を大切に利用者で重度化する中で「その人らしさ」とは何かを考え利用者一人一人にあったケアを行っている。利用者は食事前の口腔体操、早口言葉などレクリエーションを入れながら口腔ケアに努め食事が進むように支援している。近隣の散歩や外出を増やして気分展開を図ったり、バイオリン演奏などボランティア受け入れも増やし利用者が楽しく生活出来る様に支援している。地域の行事に積極的に参加して交流に努めており、地域に根づいてきている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再確認があったが、わかっていない人もいた	職員会議で法人理念である「その人らしさ」とは何かを共有し意識づけしている。利用者が重度化する中で、できることとできないことを汲み取り、利用者の意思を尊重して実践している。	どんなホームにしたいのか職員で考え、その理念に向かって頑張っていける。そんなかなれ独自の理念を作り上げることを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など近所のかたにお会いすると必ず挨拶している	散歩で挨拶をかわすようになった近隣の人から、花やミカンを貰っている。バイオリンや化粧ボランティアや中学生の職場体験の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のかたにあったら積極的に挨拶している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様等のご意見を参考に取り組んでいる	会議は活動報告、入居状況、毎回議題を決めて勉強会を行い、その後意見交換をしている。2月の会議では誤嚥性肺炎について学んでいる。	運営推進会議にいきいき支援センター職員が出席できるような働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	十分にできていない	いきいき支援センターにホームの空き状況を報告したり、利用者を紹介して貰っている。役所が主催する集団指導に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車の通りが多い為、玄関は施錠しているが、身体拘束は絶対しない	事業所前の道路が車の通りが多いので、安全確保のため入居時に家族に了解を得て、玄関に施錠している。外出を希望する利用者は職員が見守りをし外出している。「ちょっと待つて」のスピーチロックについては、職員同士で注意し合っている。っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で話し合い、虐待がないか注意、防止している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はなかなかないが、職員同士で話し合いをしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解除等は管理者がおこなっている		
10	(6)	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に要望をお聞きしている。直接聞けない時は要望書を送ってご意向を確認している	面会時に家族に要望など聞いている。要望書を年2回家族全員に送っており、返信が返ってこない場合は電話をして要望など聞いている。その意見や要望をケアプラン作成時に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで話している	職員と管理者との面談からあがった意見(食事の要望や環境に対する配慮など)に対してもできるだけ早く対応して改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近機会がすくない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へいった時などは他の施設の方と交流している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談に行き、お話を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からもお話しをお聴きし、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様ともお話しをして職員で話し合い対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはして頂き、職員は見守り、声かけをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時はゆっくりお話して頂けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できていないと思う	馴染みの美容院や喫茶店などの外出は基本的に家族や親戚の人と一緒に外出している。友人の面会がある場合は、部屋で会話を楽しんでいる。また知人など電話の取次ぎも行い、関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	ほとんどの方がリビングへ来て下さる。来られない 時は声かけをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや毎日の申し送りなどで話している	職員は日々の関わりの中で、利用者の思いや希望を 聞いている。また、利用者が発した要望などを個人 記録に記入し、情報を共有している。把握が困難な 場合は家族に聞いたり、気持ちを汲み取り、本人の 視点にたって支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に書いていただいた情報を読んだり、本人様 からお聞きしたりして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護 計画を作成している	ミーティングやケアカンファレンス、申し送りなど で話し合い作成している	家族に「介護に対する要望書」を送り、要望を聞 いている。毎月のミーティングでケアカンファレン スや担当職員が3ヶ月で評価している。6ヶ月でサ ービス担当者会議を行い、本人・家族・職員の意見 を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録を書き、申し送りやミーティングで 情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	心身の力を発揮できるよう、できることはご自分でして頂くようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の往診があり、他の医療機関の受診の場合も医療を受けられるよう協力している	本人の希望するかかりつけ医と協力医の訪問診療がそれぞれ月2回ある。専門医への受診は家族が対応し、訪問診療での様子を書いた「ふれあいノート」を渡し、情報提供している。希望者は訪問歯科や歯科衛生士の診察を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師がこられるので、利用者様の状況や相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様と医療機関など話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と医療機関と話し合いの機会を持ち、話し合いを行っている	契約書の利用基準に「常時医療的ケアを必要としないこと」とあり、契約時に本人や家族に説明している。食事が食べられなくなった時点で、家族・医師・職員で話し合い、事業所のできる事を説明し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救命の講習に参加した職員が数名いる。また緊急対応マニュアルをおいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や点検を行っている	2月と9月に職員が通報訓練を行った。また、毎月防火管理者が自己点検も行っている。備蓄品は水や粥・カンパンなど常備している。	利用者と一緒に行ういろいろな想定で、避難訓練を実施されることや地域の人の協力体制作りにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の時プライバシーを守り、介助している	職員は誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけに気をつけている。書類面は個人情報に気を付けて事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中で希望をお聞きしたりしている。なるべくご本人様に自己決定して頂けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合になってしまっているときもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の使いなれた化粧品など持ってきて頂き、ご自由に身だしなみやおしゃれができるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にあった食事形態にしている。食器拭き、片づけを中心に参加していただいている	利用者の希望を入れながら職員が献立をたて、食材は業者に発注している。身体状況に合わせて一口大・刻み食・ミキサー食にし、自分で食事ができるよう職員は見守りや介助を行っている。おはぎやホットケーキなど一緒に手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方は水分量を記入し、個々に合った食事環境をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、毎週火曜日は歯科による口腔ケア指導、隔週の月曜日に歯科受診がある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一部の方には排尿・排便チェックを書き、排泄パターンを考え、トイレ誘導を行っている	食事前などにトイレに誘導している。また、自立している人以外は排泄チェック表を記入し、その人のリズムを把握してトイレ誘導を行っている。その人に合った定期的な誘導でトイレでの排泄ができ、リハビリパンツから布パンツに変わった人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多くとって頂いたり、医師に相談して予防、対応をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の方で曜日や時間帯を決めてしまっている	重度化に伴い利用者は、週2回午後に入浴している。1階には機械浴があり、座位がとれる人は職員二人体制で入浴している。2階は個室になっており、ゆっくり入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠がある方には臥床していただいたり、一部のかたには臥床時間を作り、臥床していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明の用紙が入っており、見て理解している。変化等は申し送り等で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担してお手伝いをして頂いている。天気の良い日は散歩へ行き、時々喫茶店など出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望にそってはでかけられないが、ご家族様にご要望をお伝えしたり、外出される時はスムーズに出かけられるよう支援している	車イスの人も、ホーム周辺の散歩に出かけている。また、3階には広い屋上があり、外気に触れ風景を眺めることで気分転換を図ることができる。少し遠方への外出もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様はお金は所持はされていないが、ご家族様よりお小遣いとしてお預かりし、何かあればそちらから使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人様からすることはないが、かかってきた時はでいただきお話して頂いている。手紙についても届いた物は読んで頂いたり、居室にかざらせて頂いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が強ければ、カーテンを閉めたり、エアコン・床暖房を入れ、快適に過ごしていただけるようにしている	南に面した居間は明るく、慣れ親しんだ人と過ごせる空間になっている。また、窓からはみかんの木や畑が見え、季節を感じる事ができる。玄関やトイレ・居間に一輪挿しで季節の花を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に合った席へ案内して、気の合った利用者様同士でお話し等できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などおいて頂いている	ベット・寝具・エアコン・クローゼット・洗面台が常設され、使い慣れた机や椅子・整理タンス・テレビなど居心地よく暮らせるよう設置している。居室で日記を書いたり好きなテレビを見るなど、その人らしく好きな事をして過ごしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレ・居室他わかりやすくして、なるべくご自身で行動できるようにしている		